

Title	小田原市における観光システムのデザイン：観光政策を事例とした分析
Sub Title	Design of tourism system in Odawara city : a case study of analysing tourism policy
Author	杉崎, 祐基子(Sugizaki, Yukiko) 手嶋, 龍一(Teshima, Ryuichi)
Publisher	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科
Publication year	2011
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	<p>近年、地方都市の人口減少に伴う地域経済の低迷が深刻化してきている。そこで注目されている一つの政策として観光が挙げられる。観光の一つの有効性として、人を呼び込むことができ、その効果として外需の拡大を図ること、関連する企業にまで広がる経済波及効果の大きさを図ることが可能性としてある。この有効性に期待し、全国各地で大河やドラマのロケ地巡り、エコツアーなど地域の特色を活かした観光政策が行われている。しかし、その一方で、かつては一世を風靡した観光地であっても、衰退化していく都市は多く存在している。果たして観光客にとって魅力的な観光地となっているのだろうか。実際に観光地と魅力を関連づけた先行研究は存在するものの、それを政策に反映していくものはない。</p> <p>本研究では、システムチック・各ステークホルダーの要求を満たすことを前提とし、地方都市小田原を事例とし、全体として観光客にとって魅力となる観光システムのデザインを目的に掲げた本研究の目標としては、観光に携わる各ステークホルダー間の意識の相違の解消による、魅力的な観光地を目指した観光政策の企画立案までの観光システムデザインを行う。</p> <p>小田原市の現状と観光の取り組みを主にヒアリングなどで把握した。次に、より実現性のある政策をデザインするため、各ステークホルダーの立ち位置を把握するためにもステークホルダー分析を行った。そして、観光客・行政・商店街・市民へのヒアリング、魅力主成分分析を用いた観光政策の分析、CVCA (Customer Value Chain Analysis) の手法を用いた政策事例の分析をし、小田原市の観光システムの問題を抽出した。また、各ステークホルダーの要求を知るためにも、ヒアリングを行い、小田原の目指す観光の姿を描いた。問題を解決しつつ、各ステークホルダーの要求を満たせるように、ソリューションの候補を作成した。ソリューション候補を更に絞り込むために、スクリーニングを2回行った。カットオフメソッドとクリームオフメソッドでスクリーニングをそれぞれ1回ずつ行い、最終的に各主体間で1つずつ、計3つのソリューションを考案した。観光の有効性を考慮しつつ、各ステークホルダーの要求を満たした上で小田原市が、今より観光客にとって魅力となるための観光システムのデザインをした。</p> <p>評価と検証として、考え出したソリューション案が、観光客にとって小田原市の観光地の魅力向上に有効かどうかを観光客を対象に実際にワークショップを実施し、有効性が確認できた。また、実際に観光システムとして実現性があるかを確認するため有識者の方にレビューをお願いし、実現性と有効性を確認できた。</p>
Notes	修士学位論文. 2011年度システムエンジニアリング学 第67号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40002001-00002011-0039

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

修士論文

2011 年度

小田原市における観光システムのデザイン － 観光政策を事例とした分析 －

杉崎 祐基子

(学籍番号 : 81033270)

指導教員 教授 手嶋 龍一

2012 年 3 月

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科

システムデザイン・マネジメント専攻

Master's Dissertation

2011

Design of Tourism System in Odawara City
-A Case Study of Analyzing Tourism
Policy-

Yukiko Sugizaki

(Student ID Number : 81033270)

Supervisor Ryuichi Teshima

March 2012

Graduate School of System Design and Management,

Keio University

Major in System Design and Management

論 文 要 旨

学籍番号	81033270	氏 名	杉崎 祐基子
論文題目： 小田原市における観光システムのデザイン —観光政策を事例とした分析—			
<p>(内容の要旨)</p> <p>近年、地方都市の人口減少に伴う地域経済の低迷が深刻化してきている。そこで注目されている一つの政策として観光が挙げられる。観光の一つの有効性として、人を呼び込むことができ、その効果として外需の拡大を図ること、関連する企業にまで広がる経済波及効果の大きさを図ることが可能性としてある。この有効性に期待し、全国各地で大河やドラマのロケ地巡り、エコツアーなど地域の特色を活かした観光政策が行われている。しかし、その一方で、かつては一世を風靡した観光地であっても、衰退化していく都市は多く存在している。果たして観光客にとって魅力的な観光地となっているのだろうか。実際に観光地と魅力に関連づけた先行研究は存在するものの、それを政策に反映していくものはない。</p> <p>本研究では、システムチック・各ステークホルダーの要求を満たすことを前提とし、地方都市小田原を事例とし、全体として観光客にとって魅力となる観光システムのデザインを目的に掲げた本研究の目標としては、観光に携わる各ステークホルダー間の意識の相違の解消による、魅力的な観光地を目指した観光政策の企画立案までの観光システムデザインを行う。</p> <p>小田原市の現状と観光の取り組みを主にヒアリングなどで把握した。次に、より実現性のある政策をデザインするため、各ステークホルダーの立ち位置を把握するためにもステークホルダー分析を行った。そして、観光客・行政・商店街・市民へのヒアリング、魅力主成分分析を用いた観光政策の分析、CVCA (Customer Value Chain Analysis) の手法を用いた政策事例の分析をし、小田原市の観光システムの問題を抽出した。また、各ステークホルダーの要求を知るためにも、ヒアリングを行い、小田原の目指す観光の姿を描いた。問題を解決しつつ、各ステークホルダーの要求を満たせるように、ソリューションの候補を作成した。ソリューション候補を更に絞り込むために、スクリーニングを2回行った。カットオフメソッドとクリームオフメソッドでスクリーニングをそれぞれ1回ずつ行い、最終的に各主体間で1つずつ、計3つのソリューションを考案した。観光の有効性を考慮しつつ、各ステークホルダーの要求を満たした上で小田原市が、今より観光客にとって魅力となるための観光システムのデザインをした。</p> <p>評価と検証として、考え出したソリューション案が、観光客にとって小田原市の観光地の魅力向上に有効かどうかを観光客を対象に実際にワークショップを実施し、有効性が確認できた。また、実際に観光システムとして実現性があるかを確認するため有識者の方にレビューをお願いし、実現性と有効性を確認できた。</p>			
キーワード (5語) 魅力、小田原、観光、システム、政策			

SUMMARY OF MASTER'S DISSERTATION

Student Identification Number	81033270	Name	Yukiko Sugizaki
<p>Title</p> <p style="text-align: center;">Design of Tourism System in Odawara City -A Case Study of Analyzing Tourism Policy-</p>			
<p>Abstract</p> <p>In recent years, the economic downturn is a serious problem in the local cities because of population decline in Japan. Tourism has been focused now as one of the policies. Effectiveness of tourism is to attract people, which is to expand external demand and the economic ripple effect to other industries. Many local cities get down to tourism now to expect effectiveness of tourism. On the other hand, some tourism attraction cities are decline. There is a question does policies have been a tourist attraction for visitors. There are some previous researches about tourism and attraction, but none of them are reflected the actual policy.</p> <p>In this research, it aims to design the tourism system to attract people as a case study of tourism in Odawara-city.</p> <p>To understand the current state of Odawara-city and know demands of stake holders, the interview has a big meaning in this research. Also, it clarifies the problems by using CVCA(Customer Value Chain Analysis) and analysis of tourism policies based on basis of attractions. Then, it designs the ideal tourism system in Odawara-city. To winnow the solutions, it did two types of screening, cut-off method and cream-off method. In the end, there are three solutions between each stakeholder. The solutions aims become a trigger to make effective tourism policies to attract people in near future in Odawara-city.</p> <p>As evaluation and verification, some tourist and well-informed people in Odawara-tourism verify three solutions. As a result, the evaluation is high, which means it confirmed the feasibility and efficacy of the solutions.</p>			
<p>Key Word(5 words)</p> <p>Attraction, Odawara-city, Tourism, System, Policy</p>			